

令和7年度第1回宇城市総合政策審議会（8/5開催）での委員からの質問・意見に対しての各課回答

第2次宇城市総合計画の評価について

【資料4】

No	委員からの質問・意見	備考	担当部署	担当課からの回答
1	<p>①計画の評価指標「育てるまちづくり」の「確かな学力を育成する教育の推進」について「全国学力学習状況調査における中学3年生の全国平均正答率との差」の評価はFと低い評価だった。なぜFなのかの現状分析は進んでいるか？</p> <p>②全国平均の正答率より低い理由は解明されているか？</p>		教育総務課 学務係	<p>①各学校に宇市の結果を知らせ、各学校において自校結果分析を基に対策を講じている。学力向上には、教職員の指導力向上が関わると考えられる。教材研究をするための研修等の時間の確保のための教育課程の工夫・改善を進めている。</p> <p>②各校において、課題克服に対して、まずは実態把握に努め、その後集団としての取組、個々としての取組を進めている。令和6年度全国学力・学習状況調査では、小学校では国語、算数とともに全国平均を上回っているが、中学校ではともに下回っている。取組後の定着確認を確実に行なうことが重要である。</p>
2	<p>①達成率の現状分析・課題で「本年度実施された国語、数学ともに全国・県平均を下回り課題が残った」とあるが、この課題は何か？何を課題として認識しているのか？</p> <p>②今後の取組について、各中学校で課題は変わる可能性がある。個別の中学校に対して各課題を書く必要はないが、各中学校の課題については把握しているか？</p> <p>③指標は高校受験前の中学3年生となっているが、全国平均で比べる意味はあるのか。市の生徒の多くは、熊本県内の高校を受けるため、県平均との差をもっと重点的に展開すべきではないか？</p> <p>④宇城市内の中学校では、数学について最大何ポイント差があるのか？</p> <p>⑤今後の取り組みの成果指標で「各校でも自校の結果分析を元に対策を講じ」と記載があるが、年度が変わると校長が異動することがある。結果分析や対策について、引継ぎはされているのか？引継ぎがされた上で、この課題に対して、こういう経過をたどり、こういう成果が出ましたなどについて担当課には把握してもらえたら。</p>		教育総務課 学務係	<p>①令和6年度全国学力・学習状況調査では、小学校では国語、算数ともに全校平均を上回っているが、中学校ではともに下回っている。この要因の一つは、学力向上は教職員の指導力に大きく影響することが考えられる。教職員が時間にゆとりをもって、研修等で専門性の向上を図ることが重要だと考える。</p> <p>②各学校の課題は、学校経営案及び学校訪問等で分析しており把握できている。</p> <p>③全国や県のデータがわかる調査であれば、全国平均及び県平均の双方と比較することが望ましい。また、平均正答率のみで比較することなく、個人の結果や集団全体の分布の様子等を多様な方法（個人票、箱ひげ図等）で分析し、個人に対する手立てや集団の上位層、中位層、下位層それぞれに対する手立てを講ずることが学校では重要となる。</p> <p>④令和6年度全国学力・学習状況調査では、最大7ポイントの差である。</p> <p>⑤結果分析については、教務主任や研究主任が主体となって行っているため、分析方法や対策等が頻繁に変わることはない。教務主任もしくは研究主任が異動になった場合も、学校作成の「校内研究のまとめ」等により、成果と課題は引継がれる。</p>

令和7年度第1回宇城市総合政策審議会（8/5開催）での委員からの質問・意見に対しての各課回答

第2次宇城市総合計画の評価について

【資料4】

No	委員からの質問・意見	備考	担当部署	担当課からの回答
3	<p>学力についてデータで見て、全国平均に達していないと評価は分かるし、県平均や地域のデータが必要というのも分かる。</p> <p>ただし、データをいくら見ても、学力自体は上がらないとは思う。それは、現場でちゃんと教育しないといけないし、生徒本人たちも勉強しないといけない。というところで、全国で高得点を取っている自治体はどういう取り組みをされているのか、何が宇城市とは違うのかなどの事例調査を行い、実際に何をしているのか、対策しているのかというところの観点が大事なのではないかと思う。</p> <p>例えば同規模の同じような人口の自治体で、かつ都心部ではないところなど、似たような自治体を探して、高得点を挙げているところはどこかというような比較をしながら、検討されるのもいいのではないか。どういった内容で進められているのかなどの内容を中心に分析されるといいのではないか。</p>		教育総務課 学務係	<p>基本的に他の自治体の情報を把握することはできないが、データを多面的に分析すれば、個人や集団にあった指導方法がより明確になる。例えば、児童生徒の到達スコアを上位から25%ごとに4層に分けて、上位から順にA層・B層・C層・D層として、次のように、学力層別の集計値を比較することで、その後の指導方針を立てることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●上位25%のA層とB, C, D層の差が大きいパターンⅠの場合は、多くの児童生徒が未定着なので、該当の単元について再度復習するなどの集団指導が必要。 ●A, B層とC, D層の差が大きいパターンⅡの場合は、定着度が二極化の傾向にあるので、児童生徒の定着度に合わせた習熟度別指導が必要。 ●A, B, C層と下位25%のD層との差が大きいパターンⅢの場合には、一部の児童生徒が未定着なので、該当の単元の理解の前提となる基本的な事項にさかのぼった個別指導が必要。
4	「活躍するまちづくり」の「生涯スポーツの推進とスポーツ施設の整備・充実」で「体育施設利用者一人当たりのコスト」を指標にしているが、宇城市では、施設の使用料審議会等で、使用料は定期的に見直されているのか？		文化スポーツ課 スポーツ推進係	使用料については、これまで改定の議論を行ってきましたが、現在のところ据え置くという判断が合併以来続いている。しかしながら、昨今の物価上昇や近隣自治体との比較等を踏まえ、現在、使用料改定の議論を進めているところです。
5	<p>「住み続けるまちづくり」の「安心して子育てできるまちづくり」と「自ずと健康になるまちづくりの追求」は、プロジェクト進捗状況評価の進捗が計画期間中あまり進んでいない、ずっと変わらない状態がこの4年間続いている。</p> <p>これは、総合計画の前期基本計画も踏まえて後期基本計画が向上していればいいが、R3年からR6年にかけて、あまり変化がないとか、逆に悪くなっているなどの指標が重要で、改善が必要と思う。</p> <p>特に子育てや健康の指標は、一番市民の笑顔につながると思うので、何らかの分析が必要ではないかと考える。</p>		健康づくり 推進課 地域保健係	<p>目標値は達成できていないが、R2年度から年々減少傾向であり、個別に関わる保健指導の一定の効果はあると考える。Ⅲ度高血圧者や未治療者の割合は増減を繰り返しており、今後も継続した個別支援が重要と考える。また、高血圧の要因の一つである肥満者は増加傾向であり、今後も市民自身が体の状況に応じた選択力を養うための保健指導や健康教育とあわせ、よりよい食習慣の定着を目指し「さしより野菜・たっぷり野菜・減塩」の実践にむけた支援や周知啓発を推進していく必要がある。</p> <p>保健指導を行う専門職の力量形成を行う。また、生活習慣病の重症化リスクが高い対象者へ個別相談、家庭訪問等の重症化予防の取組みを継続するとともに、発症予防として、母子保健事業をとおした子どものころからの健康的な生活習慣の確立とともに、健診受診勧奨や各地区での健康教育の中で生活習慣病予防の周知啓発を行っていく。</p> <p>評価指標は検討が必要</p>

令和7年度第1回宇城市総合政策審議会（8/5開催）での委員からの質問・意見に対しての各課回答

第2次宇城市総合計画の評価について

【資料4】

No	委員からの質問・意見	備考	担当部署	担当課からの回答
6	<p>「住み続けるまちづくり」の「安心して子育てできるまちづくり」と「自ずと健康になるまちづくりの追求」は、プロジェクト進捗状況評価の進捗が計画期間中あまり進んでいない、ずっと変わらない状態がこの4年間続いている。</p> <p>これは、総合計画の前期基本計画も踏まえて後期基本計画が向上していればいいが、R3年からR6年にかけて、あまり変化がないとか、逆に悪くなっているなどの指標が重要で、改善が必要と思う。</p> <p>特に子育てや健康の指標は、一番市民の笑顔につながると思うので、何らかの分析が必要ではないかと考える。</p>		健康づくり 推進課 さしより野 菜推進係	<p>個人の運動習慣ありの人数は、国平均は微増しているものの、市はここ数年横這いという結果であり、市民の運動習慣の定着化が課題となっている。</p> <p>今後も健康ポイント事業や運動関係のイベント開催など、あらゆる機会を通じて、運動習慣を定着させる取り組みの継続が必要である。</p> <p>個別相談での保健指導や、健康づくり推進員活動で地域の地区活動の取り組みの推奨を継続するとともに、R6年度に導入した健康ポイントアプリを普及することで、より若い世代や健康に関心が薄い層に対する運動習慣の定着化を図る。</p> <p>評価指標は検討が必要</p>
7	<p>「住み続けるまちづくり」の「安心して子育てできるまちづくり」と「自ずと健康になるまちづくりの追求」は、プロジェクト進捗状況評価の進捗が計画期間中あまり進んでいない、ずっと変わらない状態がこの4年間続いている。</p> <p>これは、総合計画の前期基本計画も踏まえて後期基本計画が向上していればいいが、R3年からR6年にかけて、あまり変化がないとか、逆に悪くなっているなどの指標が重要で、改善が必要と思う。</p> <p>特に子育てや健康の指標は、一番市民の笑顔につながると思うので、何らかの分析が必要ではないかと考える。</p>		子ども未来 課 保育支援係	分析を行っている。（R5→R6：年度末待機児童数23→16、評価D→C）C評価の「年度末の待機児童数」については、年度途中の、育休復帰等による入所希望に対して、受け入れ可能数が不足する状況があり、保育士不足が主な原因となっている。保育人材の確保・業務改善は、全国的な課題とされ、令和7年度から令和10年度までに国が推し進める保育政策の柱の一つとなっている。
8	総合計画のプロジェクト別進捗状況評価が、C～Fとなっており、4年間ずっと改善が見られないものなどは、何もしなかったから変わらなかったのか、何かしたが結果的にこういう結果になってしまったのかを担当課がしっかり理解しているのか？	プロジェクト別進捗状況評価が4年間C～Fとなっているプロジェクトの成果指標で、計画期間中の評価が停滞または衰退している指標を抜粋 抜粋した指標「全国学力学習状況調査における中学3年生の全国平均正答率との差」	教育総務課 学務係	各学校では、毎年2回の学力調査（4月の全国学力・学習状況調査、12月の県学力・学習状況調査）の結果を分析し、PDCAサイクルによる授業改善を年2回行っている。また、毎月3～4回程度の校内研修を実施し、全職員で課題を共通認識し、改善策を共通実践に生かすなど、教職員一人一人の指導力向上に努めている。しかしながら、近年、教員の業務量が増加（中学校においては部活動も含む）し、十分な研修時間の確保が難しいのが現状である。現在本市では教職員の負担軽減に向けて、教育課程の工夫・改善に取り組んでいるところである。

令和7年度第1回宇城市総合政策審議会（8/5開催）での委員からの質問・意見に対しての各課回答

第2次宇城市総合計画の評価について

【資料4】

No	委員からの質問・意見	備考	担当部署	担当課からの回答
9	総合計画のプロジェクト別進捗状況評価が、C～Fとなっており、4年間ずっと改善が見られないものなどは、何もしなかったから変わらなかったのか、何かしたが結果的にこういう結果になってしまったのかを担当課がしっかりと理解しているのか？	プロジェクト別進捗状況評価が4年間C～Fとなっているプロジェクトの成果指標で、計画期間中の評価が停滞または衰退している指標を抜粋 抜粋した指標「HbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）8.0以上で未治療者の割合」「歯科口腔健診受診率」	医療保険課 高齢者医療係	<p>①指標「HbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）8.0以上で未治療者の割合」：年度ごとに保健指導対象者の基準を見直して専門職（保健師・看護師・管理栄養士）が指導実施しています。健診受診後に健診結果説明会個別相談からスタートし、その後3か月～6か月にかけて初回訪問から評価まで随時訪問指導を実施しています。市の健康課題の1つである高血糖の項目として、健診結果にて「HbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）8.0以上の方で治療の有無にかかわらず指導の対象としています。未治療者とは内服の開始（インスリン含む）が無い方であるも医療機関にはつながっている方が多く、主治医の指導も含め生活改善の取り組みがなされています。後期高齢者は、今までの経過の中で急激な血糖値の低下は、低血糖をおこし脳への影響が懸念されていきますので、健診への受診勧奨とともに、医療機関での経過観察が重要となります。健診・医療等未受診者の方もハイリスクの対象者として訪問を継続中です。今後も個別対応を継続（医療機関とも連携をとりながら）し、「HbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）8.0以上の方の改善に向けて取り組んでいきます。</p> <p>②「歯科口腔健診受診率」：報告時は、暫定の数値であったため、最終数値を報告します。R5（1.23%）R6（1.03%）です。今後も受診率向上のため歯科医師会とも連携を取りながら、健康講話等の機会に市民へ周知し意識向上に努めていきたいと思います。</p>
10	総合計画のプロジェクト別進捗状況評価が、C～Fとなっており、4年間ずっと改善が見られないものなどは、何もしなかったから変わらなかったのか、何かしたが結果的にこういう結果になってしまったのかを担当課がしっかりと理解しているのか？	プロジェクト別進捗状況評価が4年間C～Fとなっているプロジェクトの成果指標で、計画期間中の評価が停滞または衰退している指標を抜粋 抜粋した指標「年度末における待機児童の数」	子ども未来課 保育支援係	理解している。年度始めに待機児童は発生していないものの、育休復帰等による年度途中の入所希望に対して、保育士不足により児童の受け入れができない状況である。保育補助者雇用強化事業により、保育士の業務負担を軽減し離職を防止するとともに、保育士を目指す者の確保を図っている。（R5→R6：年度末待機児童数23→16、評価D→C）

令和7年度第1回宇城市総合政策審議会（8/5開催）での委員からの質問・意見に対しての各課回答

第2次宇城市総合計画の評価について

【資料4】

No	委員からの質問・意見	備考	担当部署	担当課からの回答
11	総合計画のプロジェクト別進捗状況評価が、C～Fとなっており、4年間ずっと改善が見られないものなどは、何もしなかったから変わらなかったのか、何かしたが結果的にこういう結果になってしまったのかを担当課がしっかり理解しているのか？	プロジェクト別進捗状況評価が4年間C～Fとなっているプロジェクトの成果指標で、計画期間中の評価が停滞または衰退している指標を抜粋 抜粋した指標「特定健診受診者のうちⅡ度高血圧者の割合」	健康づくり 推進課 地域保健係	<p>目標値は達成できていないが、R2年度から年々減少傾向であり、個別に関わる保健指導の一定の効果はあると考える。Ⅲ度高血圧者や未治療者の割合は増減を繰り返しており、今後も継続した個別支援が重要と考える。また、高血圧の要因の一つである肥満者は増加傾向であり、今後も市民自身が体の状況に応じた選択力を養うための保健指導や健康教育とあわせ、よりよい食習慣の定着を目指し「さしより野菜・たっぷり野菜・減塩」の実践にむけた支援や周知啓発を推進していく必要がある。</p> <p>保健指導を行う専門職の力量形成を行う。また、生活習慣病の重症化リスクが高い対象者へ個別相談、家庭訪問等の重症化予防の取組みを継続するとともに、発症予防として、母子保健事業をおした子どものころからの健康的な生活習慣の確立とともに、健診受診勧奨や各地区での健康教育の中で生活習慣病予防の周知啓発を行っていく。</p> <p>評価指標は検討が必要</p>
12	総合計画のプロジェクト別進捗状況評価が、C～Fとなっており、4年間ずっと改善が見られないものなどは、何もしなかったから変わらなかったのか、何かしたが結果的にこういう結果になってしまったのかを担当課がしっかり理解しているのか？	プロジェクト別進捗状況評価が4年間C～Fとなっているプロジェクトの成果指標で、計画期間中の評価が停滞または衰退している指標を抜粋 抜粋した指標「運動習慣者の割合」	健康づくり 推進課 さしより野菜推進係	<p>個人の運動習慣ありの人数は、国平均は微増しているものの、市はここ数年横這いという結果であり、市民の運動習慣の定着化が課題となっている。</p> <p>今後も健康ポイント事業や運動関係のイベント開催など、あらゆる機会を通じて、運動習慣を定着させる取り組みの継続が必要である。</p> <p>個別相談での保健指導や、健康づくり推進員活動で地域の地区活動の取り組みの推奨を継続するとともに、R6年度に導入した健康ポイントアプリを普及することで、より若い世代や健康に関心が薄い層に対する運動習慣の定着化を図る。</p> <p>評価指標は検討が必要</p>

令和7年度第1回宇城市総合政策審議会（8/5開催）での委員からの質問・意見に対しての各課回答

第2次宇城市総合計画の評価について

【資料4】

No	委員からの質問・意見	備考	担当部署	担当課からの回答
13	総合計画のプロジェクト別進捗状況評価が、C～Fとなっており、4年間ずっと改善が見られないものなどは、何もしなかったから変わらなかったのか、何かしたが結果的にこういう結果になってしまったのかを担当課がしっかりと理解しているのか？	プロジェクト別進捗状況評価が4年間C～Fとなっているプロジェクトの成果指標で、計画期間中の評価が停滞または衰退している指標を抜粋 抜粋した指標「魚介類のブランド化による収益率の増加」	農林水産課 管理係	これまで漁協に対して稚ガキの育成や資材購入など、補助金を活用した支援を行ってきた。その結果、令和4年度から5年度にかけては、生産量に対する販売量が76%以上を維持し、基準年度（令和元年度）と同等以上の販売実績を上げるなど、品質の良いカキが安定して確保され、取り組みの成果が着実に現れていた。 一方で、昨年は海水温の上昇によるカキの死滅や、チヌ・ナルトビエイによる食害といった、環境的・生物的な影響が複合的に発生しており、安定的な生産には課題が残る結果となつた。 こうした状況のもと、魚介類のブランド化による収益の向上については、年によって成果にばらつきがあり、総合計画における評価も必ずしも高くはない。 今後の支援においては、成果がより明確に見えるよう生産量に対する販売量を指標とするなど、目に見える形で成果を把握できる目標設定を行い、より効果的な支援につなげていきたいと考える。
14	総合計画のプロジェクト別進捗状況評価が、C～Fとなっており、4年間ずっと改善が見られないものなどは、何もしなかったから変わらなかったのか、何かしたが結果的にこういう結果になってしまったのかを担当課がしっかりと理解しているのか？	プロジェクト別進捗状況評価が4年間C～Fとなっているプロジェクトの成果指標で、計画期間中の評価が停滞または衰退している指標を抜粋 抜粋した指標「不知火美術館年間利用者数」「文化ホール（視聴覚室等含む）年間利用者数」	生涯学習課 生涯学習係	【不知火美術館年間利用者数について】 R4度のリニューアル以降、マナブ間部や塔本シスコなど市ゆかりの作家に焦点を当てた特別企画展（年3回）を開催するなど美術館利用者増に向けた取組を実施した結果、リニューアル前と比べて利用者数は3倍以上に増加しており一定程度取組の効果は出ているが、目標値に届いていない。来館者アンケート等を踏まえ、より魅力的な企画展を開催し、さらなる利用者増を目指す。 R2：8332人 R3：休館 R4:31,111人 R5:35,299人 R6:27,996人 【文化ホール年間利用者数】 自主講座の開催等により、文化ホールの利用者数は増加傾向にあり一定程度取組の効果は出ているが、目標値に届いていない。より魅力的な自主講座の開催や、利用者増に向けた広報などにより、さらなる利用者増を目指す。 R3:39,928人 R4:53,807人 R5：78,643人 R6：76,688人

令和7年度第1回宇城市総合政策審議会（8/5開催）での委員からの質問・意見に対しての各課回答

第2次宇城市総合計画の評価について

【資料4】

No	委員からの質問・意見	備考	担当部署	担当課からの回答
15	<p>「持続するまちづくり」「農林水産施設や環境の整備とつくり育てる漁場の推進」の「魚介類のブランド化による収益率の増加」のF評価の部分で、カキの養殖を推進するという計画が立っているが、0から0という何も達成しなかったという結果が発表されている。</p> <p>そもそもカキをブランド化しますという指標で、なぜこの指標を立てているんだろうという疑問はあるが、後継ぎといふか、そもそもカキを作りたいと思う人はいるのか、現状養殖を行っている人がいたが養殖をしなくなったのか、環境の変化でカキが育たないからしなくなったのかなど、そのあたりの具体的な説明があればと思う。</p>		農林水産課 管理係	<p>カキのブランド化による収益率の増加については、県が推進してきたカキのブランド化の流れを踏まえて、地域でも養殖の推進とブランド化に取り組んできた。</p> <p>しかし、昨年は例年よりも海水温が高く、これによりカキの死滅が発生したほか、チヌやナルトビエイによる食害も重なり、想定していた成果に至らなかったのが現状である。</p> <p>また、計画に対する実績がいずれもゼロであったことについては、令和元年度の生産量（16トン）を基準に、令和6年度は13%増の18トンを目指していたが、実際の生産量は3.7トンにとどまりたため、増加率を0%としたところだった。</p> <p>今後は、環境の変化や地域の実情を的確に捉えながら、収益性の高い水産業の実現に向けた支援や取り組みの強化を図り、成果につなげる必要があると考える。</p>
16	<p>現在も「魚介類のブランド化による収益率の増加」にチャレンジをされているということで、先行地域をまねするなどもいいと思う。ただし、水産業は自然環境が大きく影響するので、もし全く条件的に絶対合わないというファクター（要因）があるのであれば、事業自体を再検討する必要がある。それは確認してもらえばと思う。</p>		農林水産課 管理係	<p>魚介類のブランド化による収益率の増加については、これまで漁協への補助金による支援に加え、他事業ではあるが、先進地への視察研修を実施するなど、意欲的な取り組みを進めている。</p> <p>指摘のとおり、水産業は自然環境の影響を大きく受ける産業であり、地域ごとの条件や特性を踏まえることが非常に重要である。そのため、先進事例を参考にしつつも、単なる模倣ではなく、地域に適したブランド化の方法を検討する必要があると認識している。</p> <p>カキの生育についても、漁協がイカダの間隔や水面からの高さを調整するなど、技術的な工夫を重ねながら試行錯誤を行っており、現場レベルでも前向きな姿勢で取り組んでいる。</p> <p>今後はこうした取り組みや地域の実情を踏まえ、環境条件や地域資源の適合性について検証を行い、必要に応じて事業の見直しも視野に入れながら、持続可能で収益性の高い水産業の実現に向けて取り組んでいきたい。</p>

令和7年度第1回宇城市総合政策審議会（8/5開催）での委員からの質問・意見に対しての各課回答

第2次宇城市総合計画の評価について

【資料4】

No	委員からの質問・意見	備考	担当部署	担当課からの回答
17	<p>力キ養殖の件で現状0とのことだが、直売所はかなり賑わっているところもあるので、現状の分析などの結果の把握はされているのか疑問に思う。</p> <p>シーズンの時には、1～2月の収穫の時期など、週末中心にかなりお客様も多いので、確認をしてもらえばと思う。</p>		農林水産課 管理係	<p>令和元年度の力キの生産量は16トンであり、これを基準として令和6年度には13%増となる18トンを目標に設定していた。しかし、令和6年度の実際の生産量は3.7トンにとどまり、目標には大きく届かなかつたため、生産量の増加については「0%」と評価せざるを得なかつた。</p> <p>一方で、過去の実績を見ると、令和4年度は生産量12.5トンに対して販売量9.55トン、令和5年度は生産量9.68トンに対して販売量8.55トンと、いずれも基準年度（令和元年度）と同等以上の販売実績を記録しており、一定の販売力や需要があることもうかがえる。</p> <p>なお、直売所の賑わいやシーズン中の来客動向など、これまで十分に分析・把握できていなかつた点も課題として認識している。今後は力キ養殖に関する現状把握を進めるとともに、収穫期における直売所の来客状況等についても実態を的確に把握する必要があると考える。</p>

令和7年度第1回宇城市総合政策審議会（8/5開催）での委員からの質問・意見に対しての各課回答

第2期宇城市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価について

【資料4】

No	質問・意見	備考	担当部署	担当課からの回答
1	魅力度ランキングで、14市中10位を目標にして、12位だった結果にあったが、目標が10位というのは低いのではないか。もっと上を目指してもいいのではないか。魅力はいろいろな施策を資料で見たら分かると思うが、いろいろな魅力の捉え方はあると思うし、人によって魅力は違うとは思うが、取り組んだ内容やなぜ達成できなかつたのか等、その部分が結果として出ていたらいいと思う。		企画課 広報プロモーション係	平成31年度からシティプロモーションを実施し、移住定住の人口を獲得するため、他自治体に先行して総合的なPRを行い、メディア露出などを増やしたが、順位は、上昇していない。設定している指標の魅力度は、調査回答者の感覚に左右されることから、シティプロモーション活動に対する評価分析ができず、改善策が検討できないため、指標の設定を見直す必要がある。 今後は、シティプロモーションの目的の定義付けやそれを達成するためのターゲット設定、事業の効果検証ができる指標の検討をしている。 それらを基にシティプロモーションの戦略や事業計画を組立て、事業の実施や事業評価、改善策の検討による次年度の展開ができるよう進めていく。
2	「R6成果検証シート」の「参加生徒の第1志望校への進学率」で、生徒の進学率を指標にすると、少子化なので母数、分母が減るので、志望校に行った分子が変わらなくても（自動的に年々）上がる。それがミスリードになるので、担当課はその部分も理解して、実数とともに、率はそうした分子分母の関係で非常に上がるということもあるので、それも含めて要因分析をしていただけたらと思う。		教育総務課総務係	母数は宇城市全体の生徒数ではなく、学習会参加生徒数であり、年々減少傾向にはなっていない（R5年度43名、R6年度60名、R7年度44名）。 ただし、参加者数が減少するとご指摘のとおりとなるため、学習会の内容を充実させ、より多くの生徒が参加したいと思うような事業を目指す。
3	全体的に見てだが、KPIが設定してあるが、達成していない指標があるのであれば、これが要因で達成できなかったとか、達成したのであれば、これが要因で達成したとか、というところの分析ができているのかを聞きたい。	達成していないKPIを抜粋 KPI「出生数」	企画課 企画統計係	出生数は基準値が令和元年373人/年だったのが、最終令和6年度には359人/年になるなど、達成できなかった。各町別と市全体の両方の出生数は年々減少している。自然増減はどの町も減少しているが、社会増減では特に三角町がH28年から毎年減少を続けている。また、宇城市だけでなく、日本の出生数も年々減少している。当初の目標値が人口増加を見込んで設定されており、人口減少時代の中、目標値の設定が高すぎたことも要因。人口減少傾向を見据えた設定や計画期間の途中でも時代の流れを見て、指標を見直す必要があったと思われる。

令和7年度第1回宇城市総合政策審議会（8/5開催）での委員からの質問・意見に対しての各課回答

第2期宇城市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価について

【資料4】

No	質問・意見	備考	担当部署	担当課からの回答
4	全体的に対してだが、KPIが設定してあるが、達成していない指標があるのであれば、これが要因で達成できなかったとか、達成したのであれば、これが要因で達成したとか、というところの分析ができているのかを聞きたい。	達成していないKPIを抜粋 KPI「健康づくり活動参加者数」の「健康フェア、健康ウォーキング、おとこの料理教室」の参加者数	健康づくり推進課	健康づくり活動参加者数はコロナ禍以降年々増加しているものの、令和6年度の目標値7,000人に対し、4,978人と目標値には達していない。 個別分析 【健康フェア】 Uki Kirariとの合同開催により、参加者数は増加しており、R6は1,511人（R4:300人）が参加。 【健康ウォーキング】 桜十字HP、イオンモールとの共同イベントにより参加者は増加傾向にあるが、魅力的な企画が必要。R6は228人（R5:101人） 【おとこの料理教室】 開催会場3箇所 開催26回 周知方法の拡大により、新規参加者の増加や参加年齢層の幅が広がった。アンケート評価から、参加者の満足度も高く、リピーターも増加している。 R6は273人（R4:177人）
5	全体的に対してだが、KPIが設定してあるが、達成していない指標があるのであれば、これが要因で達成できなかったとか、達成したのであれば、これが要因で達成したとか、というところの分析ができているのかを聞きたい。	達成していないKPIを抜粋 KPI「健康づくり活動参加者数」の「文化スポーツ課とB&Gの大会・教室参加者数」	文化スポーツ課	要因についての分析はその都度行っており、次年度以降の指標や事業の開催などに反映させています。
6	全体的に対してだが、KPIが設定してあるが、達成していない指標があるのであれば、これが要因で達成できなかったとか、達成したのであれば、これが要因で達成したとか、というところの分析ができているのかを聞きたい。	達成していないKPIを抜粋 KPI「市民税額」「法人市民税額」	税務課市民税係	「市民税額」は定額減税に伴う減収に伴い2億1,720万円程減税されたが国の地方特例交付金で補填されています。 「法人市民税」は資材高騰などによる製鉄・鉄鋼業界が減収となった。
7	全体的に対してだが、KPIが設定してあるが、達成していない指標があるのであれば、これが要因で達成できなかったとか、達成したのであれば、これが要因で達成したとか、というところの分析ができているのかを聞きたい。	達成していないKPIを抜粋 KPI「観光入込客数」	商工観光課	令和6年度中に龍驤館及び宇城市物産館の改修工事等があり休業したため、入込客数の調査係数が変動したことが要因である。

令和7年度第1回宇城市総合政策審議会（8/5開催）での委員からの質問・意見に対しての各課回答

地方創生関係事業の効果検証について

【資料4】

No	質問・意見	備考	担当部署	担当課からの回答
1	<p>この交付金事業のように、デジタル系のデバイスやシステムは、構築でお金がかかるので、それに対して交付金が出ると思うが、その場合、民間企業がシステム構築をして、売って終わりになる。あるいは、デバイス（電子黒板）を売って終わりで、交付金を使い切ると思う。機器を現場で使って運用できるか、その後の運用するための経費は交付金に入っていないので、なかなか難しいのではないか。そのため、現場にはお願いベースでしか言えない。こういう交付金、特にデジタル交付金は、その後の運用も担保するような仕組みが必要だと思う。</p>	デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）利用事業 「大型提示装置を活用した同時双方授業の充実」	教育総務課 ICT推進係	国の交付金等は、運用経費を対象としていない場合が多いため、限られた予算の中で、効率的かつ充実した運用を行う必要がある。本課では、情報技術指導員などの専門人材を活用し、質の高い運用を目指していく予定である。
2	<p>昨年度の交付金事業だから、後に事業計画するかどうか、予算付けるかどうかは市の判断になると思う。もしくは関連事業として交付金を取るかになる。 学校で利用するのはパソコンではなく、タブレット。その場合、学生はパソコンではなく、タブレットに慣れる。使いこなすのはいいが、タブレットは、安いと基本3～5年で更新しないといけない。そうすると、かなりランニングコストを用意しないといけない。その辺も頭に入れないといけないと思う。 37ページを見ると電子黒板の使用頻度は8割超えているが、生徒の授業理解度は3割切っている。その場合、普通の黒板の方がいいのではと思う。タブレットを双方向で向するのであれば、教員も生徒も共通の物差しを理解していないと絶対うまくいかない。そのためには、機器専門家から教員と生徒へ事前情報を与えないと、出発点で伝わらず、バラバラになってくる。</p>	デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）利用事業 「大型提示装置を活用した同時双方授業の充実」	教育総務課 ICT推進係	生徒の授業理解度は、電子黒板を使用した授業における理解度ではなく、電子黒板の使用に関係しない通常の授業における理解度を指している。 双方向授業については、より効果的に実施できるよう、情報技術指導員などの専門人材を活用していく予定である。
3	<p>いきなり導入したところで、先生たちはなかなか使いこなすのが難しい環境で、新しいものに対応できる方も少ないのが現状。 うきのば（小川支所横の施設）は、小学生の利用が多い。 小学生はタブレットを普段触っていて、学校にも体験授業などで訪問することがある。学校にはパソコンの部屋があるが、パソコンは1台も置いていない。それはみんながタブレットを持っているため。 うきのばは、そういうことを解消するために作られた施設。ゲーム、e-スポーツがスタートでもいい。ゲームがスタートでもパソコンに触れてもらう。初めて来た子供たちはパソコンを触ったことがないのに、1時間パソコンを触らなければ、勝手にキーボードとマウスで遊んでいる。そういうことができる環境ということで、うきのばを運営している。 電子黒板を配置している中学校などに、私たちを派遣してもらうなど、私たち地方おこし協力隊をもっとうまく使ってほしい。私たちは、うきのばを運営するためにいるが、外部へ行くこともできる。協力隊のコンセプトは、宇城市を盛り上げようというのがコンセプトにあるので、上手く活用していただければ、こういったところも無駄にならないのではないか。 今回、電子黒板は、基本操作を覚えるために約1年を費やされたとのことだが、1ヶ月あればできる。そこは非常にもったいない動きだと思った。</p>	デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）利用事業 「大型提示装置を活用した同時双方授業の充実」	教育総務課 ICT推進係	学校ICT教育に係る地方創生協力隊の活用については、ご協力いただけるのであれば、ぜひお願いしたいと考えている。 電子黒板の基本操作の習得に約1年を要したとの指摘については、まだ導入から1年が経過しておらず、事実と異なる可能性がある。資料等に誤解を招く表現があったとすれば、誠に申し訳なく思う。

令和7年度第1回宇城市総合政策審議会（8/5開催）での委員からの質問・意見に対しての各課回答

地方創生関係事業の効果検証について

【資料4】

No	質問・意見	備考	担当部署	担当課からの回答
4	<p>このデジタル実装タイプの交付金は、このとおり、かなりの額がついている。ということは、取れる自治体と取れない自治体で格差が出てくる。そういう意味では宇城市は取っているので、努力されていると思うので、その後のフォローやもっと活用できる人材がいるのであれば、活用するなど、より有効に使っていただきたい。</p> <p>また、パソコンの話があったが、大学もパソコン設置をなくしていっている。Wi-Fi環境の安全性が高まり良くなっている。学生が自分でノートパソコンを持ってきて授業するようになっている。そうなる時代もすぐ来ると思うので、宇城市も先ほど言わされたように、小中学校でもならないといけないので、事前に決まり等ができると思う。</p>	デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）利用事業 「大型提示装置を活用した同時双方向授業の充実」	教育総務課 ICT推進係	本課では、情報技術指導員などの専門人材を活用し、質の高い運用を目指していく予定である。
5	<p>毎年、教育委員として小中学校を学校訪問している現場で見た印象をお話しい。写真に載っている電子黒板は、現状は全教室に配置でなく、学校に数台。現在、全教室にあるのはスクリーンタイプやホワイトボードへプロジェクターを映し出すタイプ。こちらで、ICTの授業をされているところが結構多く、その場合、カーテンを閉めて電気を消さないと、画像がすごく見にくく。ただそうすると板書が見づらくなる。</p> <p>今回、中学校から順に、電子黒板を配置していく。電子黒板は見え方が全然違う。先生方のICT授業などでは、子供たちが机で考えたことを打ち込むと、それがこの電子黒板にパンと出るので、いろんな子たちの意見が大画面を通して見れる。</p> <p>現状のスクリーンやホワイトボードの環境だと、光の加減、角度によって見えにくかったり、後は視力の問題で、見づらさを感じる子どもたちには、うまく見えづらかったりとかもあったので、早くこの綺麗な電子黒板になったらいいなと委員全体と話していた。子どもたちの意欲や先生たちの授業の進み方を見ると、すごくいい使い方だと思う。</p>	デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）利用事業 「大型提示装置を活用した同時双方向授業の充実」	教育総務課 ICT推進係	指摘のとおり、プロジェクター型電子黒板には、画面の見づらさや設置の煩雑さなどの課題がある。 令和6年度には、中学校にディスプレイ型電子黒板を導入した。 令和8年度には、小学校にもディスプレイ型電子黒板を導入できるよう、予算要求や交付金の申請等を行っていく予定である。
6	<p>電子黒板は、大学では、前に大きいものが1個あり、両壁にそれぞれ3個ずつある。学生は電子黒板が設置してある壁に向かってコの字で授業を受ける。距離も関係ない。いざという時は近くで行う。</p> <p>普通、距離があると画面に映すサイズを大きくしないと後ろの人は見えない。その場合、大きくするために、授業の時間が長くなり、無駄が起きる。</p> <p>今後どんどん進んでいけば、教室に電子黒板を複数個設置するなど、お金はかかるが、環境も変わるとと思う。その辺の関係も考えていただければと思う。</p>	デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）利用事業 「大型提示装置を活用した同時双方向授業の充実」	教育総務課 ICT推進係	教室への電子黒板の複数台設置については、費用対効果などを踏まえ、慎重に検討していかたいと考えていく。

令和7年度第1回宇城市総合政策審議会（8/5開催）での委員からの質問・意見に対しての各課回答

地方創生関係事業の効果検証について

【資料4】

No	質問・意見	備考	担当部署	担当課からの回答
7	<p>交付金をもらうために、評価しないといけないという話ではないかと思うが、評価となった時になんて答えればいいのかなと思う。ただ、効果が出ていないものもあるので、交付金をもらって整備したので、今回ここで出た案件は、来年どうだったか、使用しているのかという、追跡調査も必要だと思う。</p> <p>おそらく前々年度もこの交付金利用事業はあったと思うが、今回出てきていないので、それは頼んで終わりになってしまっている。やったことが今年どう活用されているのか、終わった後にどう活用されてるのか。デジタル機器であればリプレイス（3～5年で既存の機器を切り替えていく）が発生すると思うが、その時は、市の予算でやらなければならないと思うので、しっかりそこは効果を検証した上で、やるのかやらないのか、継続するのかしないのか、その部分も検証していくべきではないかなと思うので、これからが大事だなと思う。</p>		交付金利用の全部署向け	<p>(令和5年度補正予算) デジタル実装タイプ1事業については、KPI目標値（3か年分）を立て、3か年のKPI実績を国へ報告することとなっているため、その結果を本審議会に諮ることは可能。また、KPIの進捗が著しくない場合、国からの改善フォローアップが実施される場合もある。ただし、本交付金のスケジュールは非常にタイトで、かつ、デジタル実装の場合、年度末の実装となることがあり、導入年度末における正確なKPIは測定できず、施策等の成果の発現までには一定の期間が必要であることを踏まえると、評価の時期についても検討が必要である。</p> <p>なお、本審議会でご審議いただくほか、イニシャルコスト含む、毎年発生するランニングコスト、リプレイスコスト等の内容や成果について、決算の認定や予算の承認を議会で議決いただくことで検証・評価をしていただいている。</p> <p>委員ご意見のとおり、システム実装がゴールではなくそれをどう運用していくかが重要であると認識している。引き続き説明責任を果たせるよう根拠を示すとともに、本審議会の意見を踏まえた政策立案が可能となるよう本交付金を活用したシステム実装後の運用について努力をしていく。</p> <p>効率的かつ充実した運用を行っていくよう今後も調査を実施していく。</p>